

和泉聡足利市長に聞く(第 2 回)

—これからの社会で求められる人材、能力とは—

開倫塾

塾長 林 明夫

林 : おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今朝の「開倫塾の時間」は、先週に引き続き、足利市長の和泉聡様を足利市役所の市長室にお訪ねして、お話をお伺いしたいと思います。和泉市長、今日もよろしく願いいたします。

和泉市長 : よろしく願いします。

林 : 11 月は「新聞を教育に活用しよう」という NIE 月間ですので、先週は新聞のお話をお聞きしました。今週は、少し難しい話ですが、これからの社会で求められる人材、能力とは何かという話をお聞かせいただいて、放送をお聴きの皆様と一緒に考えていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

難しい話かもしれませんが、和泉市長はこれからの社会とは一体どのような社会だとお考えでしょうか。

和泉市長 : とても難しいというか、大きな範囲の質問で、どのようにお答えしたらよいのかと思うのですが、身近に感じられる私自身、私の親、私には 24、23 歳の二人の娘と大学 2 年生の息子がいますが、その私の子供たちと三世代で考えてみると、私の子供たちの時代には明らかに私の親あるいは私たちぐらいまで通用してきたスタイルというか、基本的にはお父さんが働いて、お母さんがいて、家族四人でというようなスタイルはなかなか成り立たないのではないかと思います。私たちの子供の時代になると、夫婦で共同していかないとおそらく暮らしなども成り立っていかないのではないかと思います。そういう意味では非常に厳しいです。

また、市長になって改めて感じたのは、右肩上がりの時代とは違って何でも切り詰めなくてはならないということです。高度成長期に建られたいろいろな市の施設などもどんどん老朽化が進んできていますが、新しいものに建てかえるどころか、それをどのように維持していくか、どう効率的にやっていくかという時代だと思うのです。ですから、右肩が逆に少しずつ下がっているときに、人口も減っていく中でどのように社会を組み立てていくかということが、大変難しい時代になってくるのではないかという感想を持っています。

林 : 課題が山積しているということでしょうか。

和泉市長 : そうですね。

林 : そういう難しい時代ですが、これからの社会で求められる能力を時代なりに培っていかねばならないと思います。これからの時代にはどのような能力が求められるとお考えですか。

和泉市長 : 周りとの協力できるという能力がより必要になってくるのではないかと考えます。個人の能力・個性ということももちろん大切だと思いますが、パイがどんどん限られていく、小さくなっていく中においては、やはり周りとうまくコミュニケーションを取って、手を携えて協力し合える能力のほうがかえって大切になってくるのではないかと私自身は思っています。

林 : 周りとの手を携えて協力し合っていくことも大事な能力ですね。そのほかには何かありますか。

和泉市長 : 集中力みたいなものでしょうか。そういう力も社会で求められる能力になっていくと思っています。

林 : 集中力の極致は、朝日新聞の記者のときにきわめられたのではないのでしょうか。新聞記者の皆さんは集中力の固まりみたいなものですね。

和泉市長 : そのような点では鍛えられましたね。事件記者だったので、毎切の 30 分前に大きな事件が起きたりすると、4、5 人がかりで新聞の 1 ページを 30 分ぐらいで全部書き換えてしまうということもしょっちゅうありました。そういう瞬間湯沸かし器的な集中力は、25 年間記者をしてきたことですごく身についたかなと思っています。

林 : それも大変な能力ですね。この放送をお聴きの皆さんの中には、学校で勉強をなさっている方も多いと思います。「学校の勉強は役に立つのか」と疑問に思いながら勉強をなさっている方もいると思うのですが、和泉市長はどのようにお考えですか。学校の勉強は社会に出て役に立ちますか。

和泉市長 : 役に立つと思いますね。先週お話ししましたが、私は新聞社の海外特派員もやっていたので、特に英語を中心とした語学の勉強は仕事でも必要不可欠でした。それともう一つ。語学の勉強を通して感じたのは、1つのことを成し遂げる・1つの目標を決めてそこに向かっていく作業の手順、自分の中で目標を決めて残り時間を計算し、自分に足りないものは何で、何をすればその目標に到達できるかというプロセスは、語学の勉強はもちろん、どんな仕事を選んでも同じだということです。1つの目標に向かってそれに近づいていくことを学業において自分で体得していく人間は、社会においてもやはり同じようにできると思うのですよ。知識ではなくて、そういった意味での価値というのはやはり学生時代の勉強にあると思うのです。

林 : プロセス、手順といいますか、時間を管理するというでもありますよね。

和泉市長 : 全く一緒だと思います。受験が 1 年後に控えている。そこで、自分に足りないのはここどこだということをも自分自身でわかって、自覚をしてそこを埋めていく、目標に到達していく。仕事でも、半年後にこういう仕事がある。そこで、残り時間はこれだけだ、使えるメン

バーは自分を含めて何人だ、何が足りないかと考えてそれを埋めていく。このように、勉強も仕事も一緒だと思うのです。

林 : 社会人の方もたくさんこの番組を聴いてくださっているのですが、社会人になっても勉強は必要だと思いませんか。

和泉市長 : もちろん必要だと思います。私の場合は、新聞記者時代に仕事で語学が必要だったので、語学の勉強は必要でした。市長になってからの半年間は、いろいろと知らないこと、例えば都市計画の分野や制度、法律などを空いた時間を見つけてコツコツと勉強するようにしています。やはり社会人になっても自分の仕事・自分のやっていることに応じた勉強や、自分を磨くことは必要だと思います。それから、新聞を読んだり雑誌を読んだりしながら、例えばどのように上手に挨拶をするかとか、演説の載っている雑誌を引っ張り出してきて上手な演説の仕方を考えたりとか、そのような形の勉強も必要だと思いますね。

林 : 立場によって違うとは思いますが、社会人としてはどのような勉強をしたらよいとお考えですか。

和泉市長 : 受験勉強のようにまとめてとはなかなかいかないし、夜はお酒の席が多いので、帰ると寝てしまってなかなかできません。やはり空いている時間を利用してコツコツとコマ切れにということかなと思います。

林 : ありがとうございます。今朝は、和泉聡足利市長から、これからの社会で求められる能力、人材とは何かということに関してお話をお伺いしています。最後にお聞きしたいのですが、足利の学校をどのようにしたいとお考えですか。

和泉市長 : 街の元気と学校の元気・教育の元気は連動すると思います。例えば、優秀な中学生が市外の高校に行くようなケースもあるようですが、私が高校時代には考えられなかった状況です。なんとか逆転したいと思っています。

林 : ありがとうございます。学校自体が競争の中にありますので、学校にも競争力を上げていただき、魅力ある学校をつくっていただきたいと思います。

今週の「開倫塾の時間」は、先週に引き続き足利市長の和泉聡様からお話をお聞きしました。ありがとうございました。

和泉市長 : ありがとうございました。